

土浦平和の会

発行 土浦平和の会

事務局 土浦市神立2664-2

ニュース 平成6年10月

TEL 31-9122

松代大本営跡見学の旅

10月1日・2日、松代の大本営跡見学の旅をおこないました。常磐自動車道で三郷から関越、上信越自動車道で佐久ICまでは途中休憩をいれて約3時間余の行程です。天気も台風一過、上々とも言えませんが、まずまずの旅行日よりです。碓氷峠の土砂崩れで18号線への影響が心配されましたが、自己紹介をかねて松代の旅への期待、平和への思いをそれぞれに語りながら、12時ころには小諸の懐古園に到着しました。ここで昼食休憩。松代は真田家の古い城下町。真田記念館で江戸時代の真田家累代を学び、真田家の邸宅を拝見しました。宿は国民宿舎「松代荘」。現地参加の荻原さんも交えて夜の交流は17名の参加者が親近感を一層強めました。

翌日は快晴。8時過ぎには全員が出発の準備を整えて記念撮影。9時に約束のイ号倉庫（象山地下壕）入口で待っていると、黒の作務衣を着て髭を蓄えた一見日本人離れした容貌のガイドさんが現れました。板倉弘実さん、長野詩人会議代表、元高校の歴史の教師です。松代の韓国人チェソアムさんにとりつかれて、去年は韓国にハングルを習いに行ったそうです。

さて、イ号地下壕は延長7キロメートル、幅4メートルあります。政府の各省の全部とNHKがここに入る予定だったのです。首都の主要機関を長野善光寺平に集めてしまう遷都計画だったと言います。舞鶴山の口号地下壕は現在地震観測所に使っていて、主要部分は見ることができませんが、天皇の御座所と大本営が予定されていました。地上部分にも天皇の御座所、学修院などが計画されていました。

朝鮮人7千人、日本人3千人、1日1万人が終戦まで9か月間、夜も昼も働き続けたこの工事は多くの犠牲者を出しながら、極秘のうちに進められました。本土決戦。一億玉砕。沖縄では「最後まで降伏してはならない。」という命令のもとに、民間人多数が集団自決したり、砲火の犠牲になりました。本土決戦で最後に生き残るのは誰だったのでしょうか。

行事ごよみ

- 10月1・2日 松代大本営見学の旅
- 10月 7日 土浦平和の会理事会（第1中学校区公民館）
- 10月 中旬 松代報告会・反省会（第2中学校区公民館予定）
- 10月 21日 安保破棄諸要求実現県民大集会百里集会
- 11月3-5日 日本平和大会（三沢）